

しかし、神は——詩編第 49 編

詩編 49 : 1 - 15



司祭 ヨハネ 井田 泉

2016年2月17日
大和伝道区大斎集会

高田基督教会にて

祈祷書には旧約聖書の詩編が全編収められています。これは、16世紀以来の英国教会・聖公会の伝統を受け継いでいるものです。信仰の先人たちは、詩編が信仰の養いにとって欠かせないものであることを知っていました。

今日は先ほど唱えた祈祷書の詩編第49編を読んで、しばらく黙想の時を過ごしましょう。

1

1 諸国の民よ、聞け || 世界に住む人びとは耳を傾けよ

呼びかける声が聞こえます。いろんなことに気を取られているわたしたちですが、「聞け」と呼びかける声に耳を澄ましましょう。

2 名もない人も、偉大な者も || 貧しい人も、豊かな者も

3 わたしの口は知恵を語り || 心はそれを悟る

「わたし」——だれかが、何か大事なことを伝えようとしています。神さまではなく、人のようです。何を言おうとしているのでしょうか。

4 わたしはたとえに耳を傾け || 豎琴を奏でてその意味を解き明かす

(沈黙)

2

5 災いの日に、わたしはなぜ恐れるのか || 虐げる者の悪意がわたしを取り囲む

災いの中にある人のつぶやきが聞こえます。虐げられている人の声です。悪意に取り囲まれていると言います。

その人は自分が虐げられ、悪意に取り囲まれる苦しみの中で、この世界の痛ましさ、人の救われがたさを告白します。

7 だれも命の代価を払える者はなく || 神のみ前に自分を贖^{あがな}える者はいない

8 人の贖いの^{あたい}価は高く || 人が払えるものではない

人がこの悲しみと悪の満ちた世界から救われたい、救いたいと願っても、そのために払われるべき犠牲はあまりに高く、だれもそれを提供できる人はいません。

人はみな、もがきながら死と滅びに身を委ねるしかないのでしょうか。これが結局、わたしたちの行き着くところなのでしょう。

(沈黙)

3

15 しかし、神はわたしの魂を贖い || 死の支配からわたしを救い出される

「しかし」 これを大切に聞きましょう。すべての嘆きと絶望から逆の方向に、闇から光の方向に向かわせる「しかし」です。

「神は」 神だけが救われがたいわたしの魂を、神のもとに取り戻してくださる。

人には支払うことのできない代価、救われるために必要な代価を、神が払って、わたしの魂を引き寄せてくださる。

この 15 節がこの詩編の中心です。ただひとつ心にとめていたい、心に収めていたい言葉です。

15 しかし、神はわたしの魂を贖い || 死の支配からわたしを救い出される

贖ってくださる神、死の支配からわたしを救い出してください。神がおられます。

先ほどの聖書日課で、パウロはこう言っていました。

「兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。

なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」 コリント二 2:1-2

イエス・キリスト、十字架につけられたキリストだけが、必要な代価を払ってわたしの魂を贖ってくださる。わたしたちの死を引き受けて十字架に死なれた方、イエス・キリストがおられます。この方が、虐げる者の悪意からわたしたちを守り、死の支配からわたしたちを救い出してください。

(沈黙)

神さま、わたしたちが悲しみと困難に取り囲まれるとき、十字架の主を仰がせてください。イエス・キリストの十字架において、あなたはわたしたちの魂を贖ってください。アーメン